様式１

港区立本村小学校

**令和元年度　授業改善推進プラン**

１　区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 国語 | 低 | ・「物語文」や「説明文」を正しく読み取ること |
| 中 | ・話題に沿った質問をすること。  ・既習の漢字を書くこと。  ・時間的な順序、事柄の順序を考えながら場面の様子や内容を読み取ること。 |
| 高 | ・話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取ること。  ・資料を正しく読み取り、自分の考えが分かるように、適切な言葉遣いで話すこと。  ・主語、述語、修飾語などの文の構成について理解すること。 |
| 社会 | 中 | ・地図記号や方位の知識・理解  ・必要な情報を調べ、まとめること。  ・課題把握、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し、考えたことを表現すること。 |
| 高 | ・消防の施設や設備について、火事に早急に対応する工夫を、その目的から考察する力。  ・琵琶湖疏水に関する複数の資料から、先人の働きについて考察する力。  ・まちの様子について、地図記号や等高線などの知識をもとに、表現する力。  ・年間を通した米づくりの様子と農作業で使われる機械の把握。  ・自動車の製作工程におけるプレスの理解。 |
| 算数 | 低 | ・「長さ」「時計」に関する単位換算を理解すること。  ・文章問題（ひき算）の問題を把握すること。 |
| 中 | ・分数で大きさを表すこと。  ・文章から必要な情報を読み取って、時間を求めること。  ・身近にあるもののかさを推察して、適切な単位を使うこと。  ・場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明すること。 |
| 高 | ・２桁÷１桁の余りのあるわり算を正確に行うこと。  ・千の位までの概数の表し方を理解し行うこと。  ・量と測定の領域において、角の大きさを分度器を用いて正確に読み取ること。  ・倍数を選択する問題（数と計算）の基礎的な知識・理解  ・百分率を理解し、式の意味の理解／代金を求めて比較すること。 |
| 理科 | 中 | ・観察、実験などに関する基本的な技能。  ・差異点や共通点を基に、問題を見いだすこと。 |
| 高 | ・１年間の動物の様子を、季節の移り変わりとともに理解すること。  ・人間が腕を曲げた時の骨と筋肉の様子や、手や足の曲がり方についての理解すること。  ・エネルギーの領域において、空気や水を温めたり冷やしたりした時の体積変化についての理解すること。  ・雄花のつぼみに袋をかぶせる理由を述べること。  ・顕微鏡の対物レンズはまず倍率の低いものから使うことを説明すること。  ・電流の流れる向きから、方位磁針の間に電磁石を置いた時の方位磁針の針の向きを説明すること。  ・川原の石の写真から、観察された川原の場所を推測すること。 |

２　各教科の具体的な授業改善

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 国語 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力。  ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える力。 | ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動を取り入れる。  ・読み聞かせを聞いたり、物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動を取り入れる。 |
| 中 | ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ力。 | ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を  設定する。  ・授業の中で意図的に対話の機会を設定し、グループや学級全体で話し合う活動を充実させるようにする。 |
| 高 | ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする力。  ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。 | ・文章の内容を的確に押さえるために、説明文では必ず文章構成を図  に描いてとらえるようにさせる。  ・事実と感想、筆者の意見などを区別するために、異なる傍線を引き、文中の表現を分類してから、要旨をまとめさせる。  ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を取り入れる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 社会 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 中 | ・観察、調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめる力。  ・調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して必要な情報を読み取る力。 | ・「白地図などにまとめる」際に、教科用図書「地図」を参照し、方位や主な地図記号を使ってまとめるように指導を工夫する。 |
| 高 | ・単元のまとめで、自分達で作った学習問題を確認し、社会的事象について思考・判断したことを、文章で表現する能力。  ・我が国の歴史と政治および国際理解に関する社会的事象の理解と各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる力。 | ・単元の導入で自分たちが作った学習問題を振り返らせ、分かったこ  とや考えたこと、分からないことなどを書き出させる。  ・キーワードを繋げて、まとめの文章を書くこと指導を行う。  ・用語や語句レベルの指導すべき知識を、授業の中で確実に押さえる。  ・各種資料や習得した知識を活用して、社会的事象の意味や社会の状況を説明、論述させるなどの活動を取り入れる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 算数 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもつ力。  ・文章問題など、問題把握が困難な児童がいるため、具体物を使って、表現する力。  ・長さや水のかさの量感。 | ・文章問題については、問題場面を具体物やブロックなどの半具体物を用いたり、絵に表したりする指導を続け、問題把握に役立てる力を養う。  ・加法、減法の学習では、なぜ、加法、減法が適用されるかを発問し、明確に捉えられるようにする。  ・具体物を用いた活動を行い、量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。  ・長さや水のかさなどの量的な単位については、単位量がどの程度のものなのかを身近なものを使って確認していく。また測定の活動を重視し、量感を養う。 |
| 中 | ・数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりする力。  ・目的に合った表現方法を用い  て計算の仕方などを考察する  力。  ・図形の性質や図形の計量について考察する力。 | ・習熟度別学習を展開し、問題解決の過程や結果を、具体物や図、数、式などを用いて表現し、伝え合う活動の場を１時間の授業の中で必ず取り入れる。  ・数のまとまりに着目できるよう、数カードを提示したり  図などを使ったりして考えられるようにする。  ・板書や発問をする際、図形を構成する要素を強調することで、図形の性質を見いだすことができるようにする。 |
| 高 | ・小数の乗法及び除法の意味を理  解し、計算の仕方を考え、正しく  計算できる力。  ・合同な図形や正多角形、角柱、円柱などを正確に描く力。 | ・小数の乗法・除法ともに、計算の意味と計算の仕方を、別で考えさせ、既習の整数での計算から発展させていく展開で指導する。  ・図形の性質を指導した上で、各単元の作図おける道具の使い方についても、それぞれ具体的に指導する。  ・整数、小数、分数の概念や加減乗除の計算の仕方を確実に理解できるように習熟度別学習を展開し、その中でも練習問題に取り組む時間を設定する。  ・問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動を積極的に取り入れる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 理科 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 中 | ・様子について追究する中で、差異や共通点を基に、問題を見いだし、表現する力。  ・主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力。 | ・体験を通して問題に気付かせるようにする。  ・比較できるように２つ以上のものを提示し、共通点や差違点に気付かせるようにする。  ・２事象を提示し、それぞれの事柄を関係付けて考えることができるよう、発問や指導の展開を工夫する。  ・既習事項や生活経験と事象を結び付けるために、対話的な活動を取り入れる。 |
| 高 | ・自然の事物・現象をはたらきや時間などと関連付けながら調べる能力。  ・実験、観察などに関する基本的な技能  ・実験の条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する力 | ・変える条件と変えない条件に着目させて、検証計画を立案させる。  ・実験結果をまとめる時には、条件の関係性が視覚的に分かりやすいように、図や表に整理してまとめさせる。  ・実験、観察などの基礎的な技能を身に付けさせるために、個々の児童の活動を十分に確保したり、複数回取り組ませたりする。  ・予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする力を身に付けさせるために、ペア、グループでの対話的な活動を取り入れる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生活 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・動植物を育て、観察することにより自然への関心。  ・成長に応じた継続的なお世話を通し、様々な気付きをし、記録の際の表現する力。  ・家族・友達との関わりから、周りの人に支えられていることへの気付き。 | ・小グループでの話し合いや発表会など、友達と交流することで友達の考えのよいところに気付けるようにする。  ・授業では、活動の過程を大切にし、絵や振り返りだけではなく、つぶやきや発言、思いを大切に拾っていく。意図的に取り上げることによって、自分や友達のよさに気付いていけるようにする。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 音楽 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・楽しみながら、伸び伸びと歌える力をつける。  ・拍を感じてリズムが打てるようにする。また、鍵盤ハーモニカの演奏を通し、正しい指遣いや吹き方ができるようにする。  ・鑑賞を通して、音楽を楽しむ資質・能力を育てる。  ・発声の仕方、歌うときの姿勢作り  ・鍵盤の運指と簡単な譜読み | ・発声練習や正しい姿勢、歌うときの基礎を身につけさせることに加え、楽しみながら歌える学年にあった教材の精選をする。  ・拍手、声に加え、カスタネット・タンバリン等の様々な楽器を使って、リズム遊びやリズムを聞きあう機会を多く取り入れ興味をもって取り組めるようにする。また、指遣いやタンギング等の熱心に取り組めるよう、個別に点検し継続した指導をする。導入時の鍵盤教室の実施。  ・友達の演奏や歌唱の発表を聞き、友達の良さに気付づく機会を多く設けるようにする。  ・地声と歌声の違いに気付き、元気良い明るい声も大切にしながらも、伸びのある歌声を目指して指導していく。立ち方、姿勢は毎回意識させるようにする。  ・段階にふさわしく、馴染みのある楽曲を選択し、意欲をもって取り組めるようにする。運指の表、指番号を記すだけでなく、階名唱をしたり小グループで確認し合ったりすることでより効率的に獲得できるようにする。 |
| 中 | ・自分なりに良い表現方法を考え、豊かに表現する力。  ・リコーダーの運指と正しいタンギングの仕方。  ・発音の仕方に気を付け、自然で無理ない歌い方で歌う技能。  ・曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって表現する力。 | 歌う時の姿勢と発声法を徹底していく。響きのある声を意識し、友達と聴き合ったり、模範演奏を効果的に聴いたりし、自分なりの表現の仕方を見つけるようにする。  　運指表を掲示し、視覚的に分かるようにする。常時活動でリレー形式の表現の時間を設け、お互いに聴き合うことで、正しい音の出し方が身につくようにする。  ・自分の声の特徴に気付くことを大切にしながら、曲想にふさわしい様々な歌い方を試し、声の使い方を意識しながら歌うように働きかける。  ・曲の特徴についての気付きを深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、表現を工夫する楽しさを味わわせるようにして、思いや意図を膨らませるようにしていく。 |
| 高 | ・歌唱や器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現する力。  ・表現方法を考え、自分なりのやり方で試したり、友達と関わって聴き合ったりしながらより豊かに表現する力。 | ・曲の特徴についての理解を深めたり、必要な技能を身につけたりしながら、様々な表現方法による違いを試しながら、歌唱や器楽演奏を工夫する楽しさを味わえる機会を多く設定していく。友達と気付いたことや感じ取ったことを交流する場を意図的に設け、音楽表現の学習を深められるようにする。  一人一人の声や音を聴き合う時間を常時活動に取り入れ、普段から他者の表現の良さに気付けるようにしていく。ＩＣＴを活用して視覚的に分かる教材や、模範演奏などを効果的に聴けるようにし、豊かな表現の仕方がより分かるような指導をしていく。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 図工 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・はさみやのり、クレヨン、絵の具等の基本的な表現技法。  ・伸び伸びと楽しく絵や工作を表現する力。  ・友達の作品の鑑賞を通し、よさを感じる力。  ・感触を通しての発想・構想する力。 | ・基本的な技法を習得できるように、分かりやすい板書、作品の見本作成等、事前の準備を行う。  ・導入時、作品のアイディアを引き出すための見本の作成、児童の考えの発表に加え、分かりやすい授業の流れの板書を工夫する。  ・丁寧に取り組んだり、自分の作品を大切にる姿勢をすべての児童に身に付けさせるために、発表、掲示等を通し良さに気付かせる指導を行う。  ・はさみの安全な扱い方を徹底し、はさみの刃の先や奥の使い分けによる切りやすさや使い方の違いを体験しながら技術の定着を図る。絵の具では、個人用と共同絵の具を使い方を制作を通して、経験しながら学ばせる。  ・土粘土、油粘土、液粘土など手や道具を使って感触を味わいながら、やりたいことを発見する活動を大切に発想力を育んでいく。 |
| 中 | ・感じたこと、想像したことから表したいことを考えて、どのように表すかについて考える力。  ・前学年までの材料や用具についての経験を生かして工夫してつくる力。 | ・絵の具が画用紙上に垂れる絵の具の跡を楽しみながら、垂れ跡を道に見立てることで、道（絵の具の垂れ跡）と道の周りに広がる町を想像して取り組めるよう指導する。また、紙テープをちぎって貼る楽しさをもとに木の形を工夫して表したり、切った木を積みながら、積み上げるバランスを考えたりする。  ・かなづちを使った授業では、木と木の接合で適切な釘の長さを選ぶ  場合、木の厚みと釘の長さを重ね合わせて適切な釘（長さ）を選べる  ように指導する。  ・材料の経験を生かした授業では、スズランテープ、ガミテープ、木端、厚紙などを材料コーナーに常備し、授業内容によっては使用できるよう指導する。 |
| 高 | ・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、主題の表し方を考える能力。  ・前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりして表し方を工夫する力。 | ・色と色の組み合わせ（配色）による感じをとらえながら活動できるようにする。暖色系の温かい感じや寒色系の冷たい感じ、落ち着いた色の感じ、激しい色の感じなどを味わいながら表したいことや一人一人の表現につなげていく。形の構成では、切ったパーツ（木や画用紙など）同士の組み合わせによる新しい形の面白さ、発見を大切に指導していく。  ・陶芸作品の授業では、昨年度の植木鉢づくりで学んだ「ひもづくり」などの技法をもとに、水（ガラス）をテーマに技法を生かした指導を行う。  ・パステルを使った絵の授業では、昨年度までに学んだパステルの濃淡による美しさや指で描く楽しさを生かして、光と影の美しさが表現できるよう指導する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家庭 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・調理や裁縫の実習を通して、実際に家庭生活に生かす力。  ・生活の営みにかかる見方・考え方を働かせ、衣食住など、生活をよりよくしようと工夫する力 | ・家庭生活における技能を習得した上で、工夫をしやすい箇所などを伝えたり、家庭で行う時のポイントなどを指導したりする。  ・日常生活の中から問題を見出して、様々な解決方法を考えさせる。  ・学習した知識、技能をもとに、実践的な活動を家庭や地域などで行  えるようにする。  ・他者と意見交流し、実践を評価・改善して新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 体育 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・基礎的な身体能力。  ・運動を豊かに行うための基礎。 | ・逆さ、腕支持、回転などの感覚はまだ身に付いていない児童もいるので、さまざまな動きの中から経験させる。  ・ボールの投捕も同様で経験が少ないため、ボールを投げたり、取ったりする活動を意識的に取り入れる。  ・走る、跳ぶ、転がる、のぼる、おりる、ぶら下がる等の動きの基本となる運動に重点を置き、身に付けさせる。  ・とび箱、マットなどを使った運動遊びでは、逆さや腕支持などの基本的な動きを身に付けられる場を作り、自分のめあてに合った運動を行うことができるようにする。 |
| 中 | ・自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力。 | ・ゲームでは、味方チームと相手チームが入り交って得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲームを取り扱い、規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える場を設定する。  ・自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるよう、発問や学習資料の提示を工夫する。 |
| 高 | ・運動に取り組む時には、自分の課題をもって取り組み、運動の仕方を工夫しようとする態度。  ・各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り、助け合って運動したり、自己の最善を尽くしたりして運動する態度  ・各種の運動の特性に応じた基本的な技能。 | ・各単元の初回時にめあてを設定し、最終回にめあての達成度を表現させる機会を確保する。  ・自分の課題を見付けるために友達の動きを見合ったり話し合ったりする時間を確保する。  ・運動に取り組む前にルールを確認したり、気持ちの良い言葉がけを分かるように示したりする。  ・個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導や児童自らが運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう指導計画を工夫する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 国際 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・楽しみながら発音・単語・ゲームに取り組む態度。  ・積極的に外国語活動に取り組む態度。 | ・NTの発音や語調を真似て話すことができるように、チャンツや簡単な単語を使ったゲームを取り入れる。  ・楽しみながらゲームに参加できるように、ゲームの説明を分かりやすく伝えることに加え、振り返りを毎回行うことにより、全員がセンテンスをしっかり理解し深めているかの確認を行う。  ・消極的な児童には適切に個別に声をかけるなどの支援をし、意欲的に取り組めるようにする。  ・ふりかえりなどを基にして、児童の外国語活動へ取り組みの様子や理解の様子を適切に評価し、次時に生かしていく。 |
| 中 | ・情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力  ・具体的な課題などを設定し、コミュニケ―ションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現する力 | ・児童の身近なくらしに関する場面を意図的に取り上げ、実感を伴っ  た表現活動をさせる。  ・挨拶や相槌を打つ、礼を言う・褒めるなどコミュニケーションを円滑にしたり、気持ちを伝えたりする場を設定する。  ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要  求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動を取り入れる。  ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら自分の考えや気持ちなどを話す活動を取り入れる。 |
| 高 | ・自然と発音に意識しながら言語活動ができる能力。  ・聞くこと、読むこと、話すこと書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能。  ・主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。 | ・歌やチャンツを声に出す際は、必ず歌詞や文章、英単語を文字で見  ながら行うようにさせる。  ・毎時間の導入に、フォニックスの指導とアルファベットを書く指導を合わせて行うようにする。  ・教師が単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定を行う。  ・単元の初期段階で言語活動を通して学習内容として設定されている表現の音声を聞いたり話したりするなど、英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させる。後期段階においては、設定された場面の中で、自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 道徳 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・身近な人に温かく接し、世話になっている人に感謝の気持ちをもつ。  ・気持ちのよい挨拶「礼儀」 | ・主観的な考えで物事を見がちな児童について、さまざまな人と関わる中で、相手の考えや気持ちに気付かせる。  ・役割演技などを用いて、登場人物などになりきり、どのような行動をとるとよいか考えさせる活動を取り入れる。  ・日常の体験を想起しやすい資料・題材を用意する。  ・中心発問では、ペアやグループワークといった小集団活動を取り入れ、議論させる。  ・日常の様々な場面において、具体的な指導を積み重ねる。 |
| 中 | ・相手のことを思いやり、すすんで親切にすること。  ・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。 | ・自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう話し合いの場を意図的に設定する。  ・児童自らが考え、理解したことを発表する場を設定し、主体的に学習に取り組む姿を称賛する。 |
| 高 | ・発言や記述だけでなく、自分のもつ道徳的な考え方を表出できる力。  ・道徳的諸価値についての理解。  ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える力。 | ・毎時間の評価を、発言、記述だけでなく、観察や会話、質問紙や面接など、手だてを変えて実施する。  ・児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材を活用する。  ・特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かす。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 特別活動 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 低 | ・学級生活での生活態度、健康・安全など基本的な態度。  ・よりよい学級作りへの意欲・能力の育成 | ・話し合い活動を通して、思ったことを自由に言ったり、人の話を聞いたり、初歩的な話し合いの基礎ができるように学級会の型を指導する。  ・先生のお手伝いや自分たちでできる仕事を決め、楽しく係活動をできるように、活動内容を掲示し定期的に振り返りを行う。  ・学級での話し合い活動を定期的に行う。「話し方」「聞き方」を繰り返し掲示物を基に指導する。  ・係活動は、１年生の経験をもとに必要なものを考えさせ取り組ませる。係活動と当番活動の違いを明確にする。係活動の振り返りの機会を定期的に設け、充実を図る。 |
| 中 | ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする力。 | ・理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れた  りしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、  実践するように話し合いの場を意図的に設定する。  ・高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合う姿を称賛する。 |
| 高 | ・集団生活に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する力。  ・現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度。  ・主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用。 | ・係活動、委員会活動に積極的に取り組めるよう、定期的に話し合いや、相互評価の時間を設ける。  ・運動会や夏季学園、学芸会などの大きな行事の前には、学年で学活を行い、全員で目標と計画をたて、役割分担まで話し合う。  ・学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を取り入れる。  ・自主的に学習する場としての学校図書館等を活用させる時間を確保する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 総合的な学習の時間 | 育成を目指す資質・能力 | | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| 中 | ・実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現できるようにする力。 | ・探究的な学習の過程において、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を行う。  ・言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を行うように工夫する。  ・比較、分類、関連付けなどの考えるための技法を活用する。  ・コンピュータなどの基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるようにする。  ・体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れる。 |
| 高 | ・実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力。  ・探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能。 | ・各教科や、東京オリンピック、パラリンピックに関連したものの中から、興味関心を基に課題を見いだせるな導入を行うといった指導を展開する。  ・本やタブレットＰＣ、体験活動を通して情報を集め、アプリケーションソフトに整理し、全員がプレゼンテーションを行う。  ・情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの情報に関する学習と取り入れる。そのために必要な情報手段の基本的な操作を習得させ、情報や情報手段を主体的に選択し、活用できるよう配慮する。 |